

学校生活スタートにわくわくドキドキ

市内の小中学校で入学式

市内の中学校で4月7日、小学校では12日に入学式が行われ、219人の中学生と170人の小学生が新しい学校生活をスタートさせました。

納所小では、上級生が作った花のアーチをくぐって新入生9人が入場。晴氣和明校長は「①大きな声であいさつする②ありがとうを言う③早寝・早起き・朝ごはんをする④先生や友達の話をしっかり聞く、この4つを必ずできるようになり、すばらしい納所小の子どもになって！」と言葉を贈りました。新入生は、名前を呼ばれて晴氣校長から一人ひとり教科書を渡されると「ありがとうございます」と大事そうに受け取り、緊張しつつもこれからの日々が楽しみな様子でした。

▶晴氣校長から教科書を受け取る新入生



市内から温かい支援届く 東日本大震災支援関連

被災地支援に多くの市民のみなさんから義援金や支援物資のご協力をいただいています。

3月24日（終業式）に北部小5年生10人が市役所を訪問。自分たちでできることはないかとポスターを作成し、学校内で義援金活動を実践しました。市は、日本赤十字社を通じて、被災地へ届けました。



4月5日、東多久町で事業を営まれている伊東英明さんから精米30俵の寄付を頂きました。市では、この支援米を10kg袋に詰め、計162袋を岩手県久慈市へ送りました。

支援米に対するお礼のメールが届きました

岩手県久慈市に住む乙部正昭と申します。このたびは支援米をお送りいただきありがとうございます。私も被災したひとりであり、家族5人の家長として大変ありがたく受け取りました。

報道では岩手県の中・南沿岸部・宮城・福島の記事が際立っていますが同様に県北沿岸部も死傷者は少ないながらも甚大な被害を受けております。これほどむごい悲惨な災害を私は、経験がありません。小5の子供は余震が続いていますが夜の余震だと震えております。最初は、命があっただけでもありがたいことだと思っておりましたが時間が立ち考える時間ができた今、今後のことが心配になってきております。今までの家は半壊で家には住めない状態です。今は、知人の世話で空家を借りて住んでおります。

そんな矢先、久慈市からの支援物資の支給ということで支援米をいただきました。支援米には「頑張ろう！ともに！久しく

慈しむ心を込め復興を念じつつ・横尾俊彦市長

温かいお言葉でした。この言葉を見た時、熱く感じるものがあり、お礼を言わなくてはと思いました。

震災後、インスタント麺・レトルト類で子供たちも食欲がなくあったかい炊きたてのご飯が食べたいと言っていた矢先の支援米はありがたいものでした。（なかなかスーパーでも品切れ状態が続いておりましたので…）本当にありがとうございました。

お米を育てるのには時間と手間がかかることは知っております。そのような貴重なお米をいただきましてありがとうございます。

多久市のホームページで伊東様からご寄付いただいたことがわかりお礼申し上げたくてメールいたしました。ありがとうございました。何度言っても足りないくらいです。今回のご支援に伝えることは、私たちが復興に向けて動き出すことと思っております。微力ながらもできることを協力して参ります。

多久市の皆様もお体にお気をつけください。